桜染

発行所
郡山市外徳定字中河原1
日大東北工高同窓会
発行人　半沢　忠
編集人　吉沢克也

新春の学園に会す

第七回定期総会開く

第七回定期総会は正月二日午後一時半より五年振りに母校学園内の学部校友会館に於て開かれた。みぞれ模様の寒い日になつたが、森田、増井、太田の三先生と会員三十数名が出席して始められた。会長挨拶、三先生の挨拶に続いて一般経過報告、会計報告があり、支部現況報告として関東支部は佐川隆祥君、茨城支部は佐藤喜蔵君それに宇都宮支部は長沢進君がそれぞれ活気ある友好を深めていることなどの報告があつた。引続き議事に入つて本部役員提出の会の名称をもつと親しみのあるものに変更したい由の議案について審議したが、少数の会員での賛否は決定し難く、機関紙に掲載して多数の意見を聞いた上でということで保留となつた。また途中から同席した母校中退の者についても同窓会の集会に参加を認めてほしいとの意見が出されたが、これも決定を保留して再検討することにして各々の役員会でも協議することになつた。これで議事を終了して懇親会に移つた。

まず母校と会の発展を祈つて全員で乾杯し、続いて自己紹介に入つた。各人各様、ユーモラスな紹介に爆笑の連続だつた。

会場はストーブを中心に円形に並べたテーブルでの集会は円卓ならぬドーナツ会議とシャレる。会場の広さも人数から推して適当といつたところ。オードブルを前に学園内で盃を交わすのは、一層親しさも増すようだ。アカシヤの林に囲まれた美しい新校舎を背景に一同記念撮影をする。あれこれと話題は尽きない。紅潮した面々に若さが溢れる。全員で「校歌」と「若きエンジニヤ」を合唱してなごやかに終了した。

（上）ストーブを囲んで　（下）新校舎をバックに

幾度かアカシヤの花が咲いて散つた。そしてまたも梢に木枯が吹く頃となつた。

その間四千になんなんとする卒業生が巣立つて行き、青年技術者となつて産業界に活躍している。真に感慨無量と申すべきでしよう。

これらの諸君にとつて母校は思い出の第一番と思う。時にふれ学校はどうなつているだろうと思い出しておられることと思うので、ここに少々本校の現況をお知らせする。

その第一番に書きたい事は、新校舎第二期工事の事です。第一期工事により生徒の約半数は近代設備を有する校舎に学んでいるが、他の生徒は旧態のままである。江崎校長は特にこの点に心を労され何としても残りの生徒を新しい校舎で学ばせ、心よい環境で思う存分な勉強をさせてやりたいという

学校の近況

教頭　庄司俊夫

念願で御努力され、それがこの夏にやつと具体化し、現在鉄筋三階建の校舎を建造している。外廊は既に完成に近づいており、第一校舎より遥かに大きく、建造費も約二倍近くなるであろう。

この校舎は三十八年度学年より使用する予定で工事を進めている

出来上つたならば東北工業高等学校の偉容は正に県下第一になることと思うし、建築内容の立派なこと、収容力の大なること正に卒業生諸君の一大勝りとなるでしよう。

次に今年の就職の予想を申上げましよう。諸君も御承知の通り、大手筋財界の寒風が各方面に影響

しているので、或る部門では就職が思うようでないという所がありますが、本校の場合はその影響が割合に少いと考えられる。これは卒業生諸君がそれぞれの職場で真剣な意欲を以つて立派に活躍されている結によるは勿論、大日大の背景のあることにもよることと存じます。十一月中旬現在にて入社通知を受けたる者は既に八割にもなつている。この点から推測すれば三月末までにはまず完全就職の線も困難ではないと思います。

工業界には年々波がありますが今年は土木、建築がとくに求人が活発であるようです。そして重工

業方面は多少下向きと考えられる。

生徒の情操教育を兼ね、文化向上を目的として学校内にバンドを組織し、自衛隊音楽隊長の指導により授業時間の余暇に専心訓練を受けており、現在では中部地区では最優秀のバンドになつて、幾度か市内で出演している。これも我々のよき誇りの一つと考えております。勿論学問並に人形の形成には一段の努力をしており、各先生方もその線に力をつくしておられるのであつて、今年行つている進学補習などは旧態を脱し、先生、生徒共に真剣な努力をしており、その成果を期待しております。

終りに卒業生諸君はお暇もないとは思いますが、折あらばぜひ母校に立寄られて語合をする時間を持たせていただき、現役各位と卒業生諸氏の協力により本校の大きな発展を希う次第であります。

有意義なる一日

新支部長に折笠君（二機）

第五回関東支部大会

第五回関東支部大会は、六月三日午前十時より東京大森海岸にある平和島温泉で開かれた。当日は朝から小雨がパラついて出足が心配されたが、江崎校長はじめ、本部からは半沢会長他三名、それに茨城支部と宇都宮支部から代表各一名、関東支部会員と縁数五十余名が出席した。大会はまず支部長高原君の挨拶に始まり、半沢会長の挨拶ののち、江崎校長の挨拶では、学園の過去、現在、それに未来の構想を具体的にユーモアを混じえて説明された。一同ビールで乾杯したのち、出席者一人々々の会社の宣伝を含めた自己紹介があつて、中には電気関係の会社で、課長の座にある者は「実験室に我が社の製品を無料で提供したい」とか、また原子力関係従事者、造船技士、航空関係の者なども技術の援助をしてもよいなど、若きエンジニアらしい一幕もあつて、会も最高調。話を耳に入れながら江崎校長は会場風景のスケツチに余念がない。

次いで議事に入つたが、会員同志はずす話に議事の方はサツパリ校長の「議事はあと廻しにして学校について諸君の話を聞きたい」との発言で、校長を囲んで熱心に質疑応答があつた。学校の話にはやはり誰もが関心を示し、なかなか話は尽きない。その後、校長を中心に全員で記念撮影をした。

過去四回をふり返つてみて、最も意義のある会だつた。やはり同じ学び舎に過した同志だけに、夫

（上）校長と一緒に笑つてパチリ
（下）熱心に懇談する校長（○印）

新役員決る

会終了後、大森駅前の食堂に役員が集まり、大会であと回しになつた議事の役員の改選について話合つた。その結果新役員及びブロツク委員を次の通り決定した。

支部長　折笠春雄　二機械（東京　電力）
副支部長　佐川精威　八機械（東京　電力）
〃　高原広康　二工化（専売公社中研）

第二の校舎建つ

新校舎建設第二期工事は、今年の九月初旬に着手以来四カ月、間もなくコンクリート打込みを完了する。場所は、元の学部工化実験室の跡で、現在の新校舎の北東に　たる。既に堂々たる三階建の外観が、偉容を見せている。

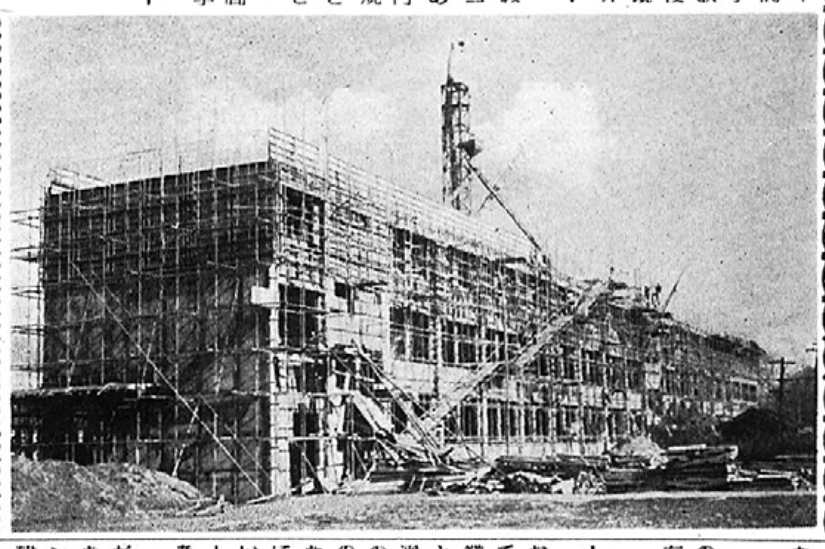
建坪は約一千坪、教室数一八、大製図室一その他諸備室などがあり、総工費は約一億円全て現在の校舎より規模が大きく来春三月との完工を目指して急ピツチで進められている。

これが完成すると、学部一、高校一と三つの校舎が建ち並び、学園風景は一変する。

書記　古宮重信　三電気（日航整備KK）
〃　木村武男　四工化（東邦高圧工業KK）
会計　古宮八郎　四電気（トリオKK）
〃　相原　茂　三電気（利根電機KK）

ブロツク委員

【中央ブロツク】高原広康（二化）千葉公元（二化）【京北ブロツク】大山照男（一電）鈴木久夫（二電）【京葉ブロツク】橋本春雄（四化）箭内義光（三化）【京浜ブロツク】増子国嘉（三化）坪内元嘉（二化）渡辺隆敏（四機）



来春卒業生の就職

就職担当　高橋四郎

本年度卒業者の就職活動もいよいよ大詰に近づいている。十一月上旬までの求人総数約二、八〇〇名余（事業所数にして四八〇社余）にして昨年暮頃から噂された経済界の不況からすれば極めて恵まれた結果となつた。これも我が日大東北工業高校の卒業生諸兄の実社会における活躍の賜ものとして各事業所より本校に対する信用のあらわれと、我々一同の最もよろこびとするところである。

併しながら本年度の各事業所における採用に対する態度には極めてきびしいものがあり、特に大企業においては、将来の幹部候補者としてその実力を強く要求して厳選している。それにつけても中小の各企業においては長年の求人難のため思うように採用できなかつたことを補うため、経済界の不況による一部企業の採用見合わせという機会に少しでも、すぐれた好人物を求めて懸命であつたようである。

そこで、我校の就職状況であるが、かかる経済状況においては、まず好況である土木科の百パーセントをトツプとして、工業化学科建築科、機械科、電気科、普通科と、いずれも最終段階に到達した併し、これらいずれの卒業生も、これまで温床のガラス張りの中で育てられたものばかりで、生の空気に触れたことのないものであることから、我校卒業生諸兄の温かい御指導を期待している。また、それによつて本校並に卒業生諸兄の実社会における発展も約束されよう。

会員に告ぐ！

―会の名称変更について―

第七回総会に於て本部役員側から提出された「本会の名称変更」について、諸氏の御意見をお聞かせ下さい。

変更案提出の理由は次のようなものです。

❶現在の会の名称と機関紙の名称とを統一して、一層親しみを持たせたい。

❷現在の名称では字数が多いので事務取扱上及びその他各支部に於ては簡便に字数が多く不便を来す。

❸大いに発展しつつある本会の名称の中に、それに相応した意義を含ませたい。

❹他校同窓会については殆んどが校名よりも意義深い名称を持つている。

なお、本部役員は「桜染会」の案を提出している。

以上の提案について多数の会員の御意見を伺いたいと思います。左記宛どしどしお寄せ下さい。

【宛先】郡山市細沼町二二七　半沢　忠

同窓会とは何か。こう考えると、何か格式ばつたものを感じて近より難い。もつと気楽に考えられないだろうか。同級会――といつたら改たまつた会合を想像しないだろう。同窓会とは要するに同級会を大きくしたに過ぎない。同級会のような和やかさを同窓会にもほしいものだ。同窓会総会などというと、まず七面倒な議題の会議だけを連想して楽しさを連想させる何ものもないような気がする

▼諸氏の中には会社内で同窓生同志でグループを作つて、余暇を利用して親睦のためのレクリエーションや語合いの会をもつ者も多勢いることと思う。同窓会もそれと大して相違はないと思う。ただ大きいか小さいかだけであり、同じ学び舎に過した仲間のみで構成する一つのグループなのだ。先輩も後輩の区別も第程度要はないものと考える、そしてお互を理解するために、また旧情を更に温めるために意見を交換し合つて、より親交を深め、慰め励まし合える、そういう仲間の集りであると考えたい。▼どうも同窓会という語が何かしかつめらしいものを感じさせるのかも知れない。そうであるとするなら、今春の総会で本部役員から提案のあつた名称を変更したい意の合点がいきそうな気がする。「○○会」とか「××会」とか、もつと情の訓染めそうな名称にしたらよいのかも知れない。面倒な事は必要でない。要は会員同志が気易く話し合える事が、親睦を意図するものであり、これが会発展の源泉であると考える。そして会の発展はやがては母校隆昌の一つの支柱となることでもあろう

▼会員の数だけで発展は望めない。各支部のブロツク毎に小さいながらも人の輪（和）を作り、徐々に広げて一層親和性を持つた大きい輪を作りたい。そのために会員一人一人が会を愛護し、協力し合つて輪をつなぐ一員としての誇りを持ちたいものだ。

私の風土記〔4〕「山形」

家並の美しい城下町

一期工化　渡辺和好

郡山駅を発つた特急は一三六キロを三時間足らずで走り、やがて蔵王と鉄びんで知られる山形へ到着する。地名が示す如く、東に蔵王、西に月山を望んで山形盆地の南東に展けた城下町。市内には仙台、秋田に次ぐといわれるほど美しい家並が見られ、県の政治、経済、文化の中心として活気のある中に城下町のたたずまいが安らぎを与えてくれる。サクランボ、ブドウなど果実の産地でもあるが、やはり全国的に知られるのは樹氷とスキー場としての蔵王であろう。この山懐にある市は雪国を想像されたかも知れないが、近年は真冬でも三十センチ程度と至つて少ない。今年も早や十一月中旬からシーズンに入つたスキー場は、年末からはスキーヤーのメッカと化す。

コマ草などの美しい夏山もまた然り。登山者の群は年々数を増しそれに今年の十月からはこの山を横断する「蔵王エコーライン」なる自動車道が開通し、仙台～山形を最短コースで結び、観光客源の美観を車窓から眺められ、一般観光客で増々賑やかになつた。

山頂からは遥かに吾妻連峰も望まれ、山岳地帯の一大展望は俗界を忘れさせてくれよう。

市の東北方約十二キロの地には奥の細道で知られる山寺立石寺があり、「しづけさや岩にしみいる蟬の声」の句が実感を伴なつて身に迫る。市内で早掛ける流行づくめの娘達も言葉は純粋なる山形弁そのまま。それだけに親しみも感じられる。もし、諸君がスキーや旅の途中に下車されるならば、吃度、この街の美しさと共に純朴な人々の言葉にも親しみが感じられることだろう。

今やスキーシーズン。帰郷のついでに少し足を伸ばしてはいかがです。その折は鈍行をお奨めする。途中から「庄内おばさん」が隣席することもあろうから――。そんな時、スキーの楽しさも一段と増して良き印象となろう。

ともあれ、「一度、こつちへ来てけらつせ」。

私の職場

―(5)―

日野自動車工業KK

【一期電力】大山照男

大型バスからルノーまで

信頼性ある部品の実験

東京都南多摩郡日野町日野七三一九というのが。私の勤めている日野自動車工業KKの工場所在地である。東京といつても附近には田圃も畑も見られ、町も田舎町といつた感じの静かな環境の中にある。この静かな環境の中にあつて特に自動車製造工場である私の会社（この町には他に富士電機、小西六、オリエント時計、神鋼電機などの工場がある。では、国内は勿論、間近には貿易自由化による国際競争には打勝つべく、研究、製造、事務の各部門が夫々に努力している。国内に於ては二、三年以来自動車ブームは加速度的に伸びて来ており、その点でも自動車業界の競争は一段と激しくなつている。また一般大衆の自動車に対する見方も非常に専門的になつて来て、我々技術関係に携わる者にとつて生易い考え方ではならない事態となつています。私もその点ではこの自動車ブームと貿易の自由化という具体的な問題を目前にして、日夜良い品で安く信頼性のある部品を車に取り付けるべく実験を重ねている。（つまり私の職場は実験係なのです。

実験にも色々あつて　機関、車輌、部品、材料などとある中で、私は学校の電気科を修業している関係上、現在は、主に自動車用電気部品の実験担当員として働いている。自動車用電気部品と一口にいつても案外その点数は多く、更に最近は半導体の発達によつて一層電気部品の分野が広がつてきている。具体的な仕事の内容は省略するとして、この種の実験を行つているのが私の職場です。

職場の紹介が先になつてしまつたが、会社には従業員約五千人、高校を卒業して入社する人は毎年平均三十人程度。一般的な傾向ではあるが、私が入社した昭和二十九年当時に比べると福祉更生施設が良くなつて来て、地方から入社して来た者にとつては大分生活も楽になつて来ているようである。

最後に多少宣伝めいた事になるが、私の工場で造られている車を紹介すると、大型では、リヤエンヂンバス・ボンネット型バス、四輪駆動・六輪駆動ダンプトラック十五トンダンプトラック、前二輪十トン・八トン・七トン六・五トントラック、その他特殊車輪などがある。また小型では、ガソリンエンヂンでコンテッサ、ルノー、コンマースプリスカなどの車は広く知られるところである。

自動車部品は総合部品でもあつて、あらゆる企業との結びつきがあつて成立するもので、皆さんの中にも関係されている方が多数いるものと思う。

いづれ機会があつたら更に紹介するとして、車を運転される方の安全運転を祈りつつ筆を置く。

（リヤ・アンダ型バス）

思い出の

蔦温泉

一期電通　石井利和

昨年の秋、機会があつて青森、八甲田山、十和田湖、八幡平と山旅をする事が出来た。これらの中で特に印象に残つたのがこの蔦温泉附近である。八甲田山と十和田湖の中間に位するこの蔦温泉の名を知らない。

明治の文豪大町桂月は、この地に親しみ住んで、十和田湖、奥入瀬渓流を世に広めた人で、この地で生涯を終えた。ブナの原生林の中に彼の質素な墓が、静かに苔むしている。ここより一キロ位離れたところに、八甲田山群の凝山に囲まれた蔦沼があるが、静まりかえつた水面に燒けただれた硫黄岳の姿を写している。

木の葉の寄する岸辺の倒れた巨木に腰をおろすと、心の中までが澄んで来る。澄み切つた水辺に、するどい鳥の声が響いて、また元の静けさが囲りを包む。

山道を歩くと大木に這う山ぶどうの房が、いく筋もいく筋も連なり舌も唇も刺れる泛唾うと酸つぱいのとわずかの甘さが何時までも消えない。残りはリックに詰め込む。道のあちこちに、ひとかかえもあるブナ材が倒れ通行を阻む。乗り越え、くぐり、沼から沼へと廻り歩く。

この辺の沼には魚が多く、鯉かあるいは鮒か、三〇センチもあるのが時折反射してキラキラ躍る。沼の形によつて長沼とか、瓢箪沼とかの名があつて、これらの中には近くの山の噴火によつて出来た頃思われるのもある。日が西に傾むく、蔦温泉には、十和田湖行の終バスが待つていた。前日一緒だつたガイド嬢に、Tが山ぶどうをやると「珍らしいものをありがとう」ときれいな声でいつた。

諸先輩方へ

母校野球部主将　二瓶衛

私達野球部員一同は、自分自身の精神肉体は勿論、団体競技におけるあゆるスポーツマンシップを身につけ、甲子園大会予選においては、シード校に選ばれ、準々決勝まで進むことが出来ました。これも偏えに諸先輩方の御声援の賜であると感謝致

同窓生の皆様お元気ですか。厳しい社会の荒波を乗り越え、日夜精進していらつしやることと存じます。私達野球部一同も一生懸命励んでおられる諸先輩達に負けないよう努力しております。

豪放、快活な中にも繊細な精神、如何なるものにも屈せぬ強健な肉体を養なおうと猛練習を積んでおります。

練習が功を奏したのか、一年毎に強さを増し、今年は春の選抜大会には決勝まで進出し、夏の甲子園大会予選においては、シード校に選ばれ、準々決勝まで進むことが出来ました。これも偏えに諸先輩方の御声援の賜であると感謝致

今でもTに逢うと、その時一緒に撮つた写真を出して来て、うれしそうに微笑む。よほど気に入つたらしい。だが今は名も知らない青森の人。若き日の山旅の良き思い出となるだろう。

（須賀川郵便局勤務）

しております。来年度は一年生の時から主戦投手としてマウンドを踏んでいる高田をはじめ、レギュラー四人が残つており、優秀な一年生がレギュラーポジションを勝ち取ろうと、校を競つておりますので今年以上の強力なテイームが出来上るものと信じております。

私達野球部員一同は、自分自身の精神肉体は勿論、団体競技における全ゆるスポーツマンシップを身につけ、甲子園出場を目指して頑張るつもりでございます。先輩諸兄も今まで以上に御声援労々御期待下さるようお願い申上げます。

「アカシヤ会」結成へ

パラマウント工業KK　寺田広

私は郡山市内にあるパラマウント硝子工業KKに勤務する者です。今度会社に就職せる会員が五〇名になつたのを機会に「アカシヤ会」という名の親睦を図する会をつくろうとしておりますので皆さんに御紹介します。

何カ月か前の事、社内の食堂で「Tさんですね。僕は九期生のKです。宜敷くお願いします。Tさんの事は、桜朶で知つています」と、ふいに話かけられた事があつた。初めて見る後輩の顔をしばらく見ながら、私の過去をふり返つてみた。月日の発つのは早いもので、入社してから来年で十年目である。私が入社した当時、既に会員が数人いた程度で、別に親しく話し合う機会もなかつた。毎年何名かずつ入社している事は知つたが、広い社内での事、時間的にもなかなかそれらの人々と顔を合せる事も少なかつた。ところが九年目の今、N君の話によると、なんと五〇名になつているという事で驚いている。一社にこのように多勢が就職している事は県内でも数少いことだろうと思います。話の中で、K君は入社して一つがつかりした事があるという。それは、自分達が入社した時、先輩が新入社員歓迎会などを開いてくれて、今後の行動などについて語合いが出来るものと期待していた。ところがそれらしいものもない、という事だつた。これを聞いて私もウツカリして気付かずにいたことを詫びた。早速、H君、I君、N君にこの事を伝え、今後は社内でも会をまとめて、三君が幹事になり次年度からは後輩を温かく迎えてやれる会を作ろうという事になつた。名称は母校の林に因んで「アカシヤ会」とした。会員の親睦を図ることを目的とする明るく有意なものにしようと、現在具体案を検討しています。皆さんの中に会社で行つているこれらの会がありましたら、参考になる事柄を、良い会の結成のために御協力いただければ幸です。

『ハワイのフラ娘』　3期電　古宮重信

母校へ

柳沼君（四土木）

土木科四期生の柳沼光男君は、昨春学部の土木科を卒業し、今度母校土木科で教べんをとる事になり、十一月十日より勤務している。四期土木科からは太田興亜君も、昨春より勤務しているので、これで二人の教師を送つたことになる。他に郡司一弘君（三期工化）もおり、母校発展のために大いに活躍を期待したい。皆さんの声援をお願いします。

なお、昨春より勤務していた橋本正美君（一期建築）は去る二月二十八日に退職した。

37年度会計収支決算報告

【収入の部】	
前年度繰越金	50.995円
9期生入会及び年度会費	163.200
銀行預金利息	1.309
第7回総会残金	1.310
計	216.814円
【支出の部】	
名簿関係費	70.000円
会費関係費	2.800
入会金関係費	14.000
バッヂ製作費	1.920
役員会費	5.860
出張旅費	15.000
支部通信費	660
事務関係費	未定
桜朶	
計	110.240円
差引残金	106.574円（次年度繰越）

以上の通り相違ありません。

37. 12. 10　会計　広長威彦、柳沼力夫

お知らせとお願い

◉住所の確認

毎年発行している本紙を全会員に郵送しておりますが、本部に記載してある住所の違いから、返送されて来るものが多数あります。これらの者は全て住所不明となつて、以後の通信が出来なくなります。そこで新たに全会員の現住所を確認いたします。はがきに左記事項を記載の上、一月末日までにお送り下さるようお願い致します

❶期生、❷科名、❸氏名、❹現住所、❺勤務先名及び住所。

なお、同級生及びその他の会員の住所などおわかりの方は、併せて記載して下さい。

【宛先】

郡山市赤木町一七八

広長威彦

◉落書帳の巡回

来年四月より落書ノートを各期毎に一冊ずつ巡回することになりました。これには各自の消息、通信、紹介、その他何なりと落書をして下さい、今後はこれらを主材として、桜朶を編集する予定です皆さんのご協力をお願いします。

◉原稿募集

第七号の原稿を募集します。

【私の職場】

自分の職場を紹介したい方は奮つて投稿して下さい。二二〇〇字以内、写真一、二枚添付。

【わたしの風土記】

自分の住む土地をユーモラスに綴つて下さい。単なる観光的な紹介でなく、人情、風習、方言、歴史などについて書いて下さい。

拝啓　世は師走の風。諸氏には一年のご無沙汰。お元気、まことに結構。会員既に四千に迫り、全員元気。その間に便りが全くない便りないのが事なき便り――とかそれにつけてもなさ過ぎる。お蔭で今度もネタ不足。東奔西走、今日か明日かとアンテナを張りめぐらせて、電波のキャツチにとれ努める。今年は何とかなりそうか。ところが何んと待ちぼうけ。これはかなわんお手上さ。それでとうとう十二月。指名手配やSOS。これでどうにか埋まるか。何とか今年も編集完了。明日からどうやら高枕。

▼来年こそはと意気込んで、それでも例によつて例の如し、そこで頭をひとヒネリ。そして出たのがグッド・アイデア。先は来年のお楽しみ。いつかは飛込む「落書ノート」。何でもどれお好み次第自分のスペースを埋めてほしい。この楽しみを聞きつつ、今年もどうやら越年できるか。

▼希望を胸に初春も間近か。諸氏にも元気でよい年を。役員一同ひたすら祈る

会員殿　頓首